

近江妙蓮の歴史・鑑賞と守山宿散策

活動記録 担当：1班



資料館にて

近江妙蓮について、植物学的特性、大賀一郎博士の尽力、田中家が642年守り育ててきた歴史等の解説を受ける。

実施日：2018年7月27日(金) 天候：晴れ 参加者：60名

集合：10:00 JR 守山駅西口

行程

10:10 守山駅 ⇒ 10:30 バス停「田中」・・・ 10:40 近江妙蓮公園（2グループに分かれて解説と鑑賞）
⇒ 12:05 バス停「田中」⇒ 12:20 バス停「守山銀座」・・・ 12:30 本町自治会館（昼食・班長会）
⇒ 13:30 徒歩・・・ 東門院・・・ 中山道・守山宿（文化交流館、うの家）・・・ 14:40 守山駅 解散



中山道 守山宿

江戸時代、旅人の1日の行程は八里〜十里（約40キロ）
東下りの人たちは守山で泊まった。
「京発ち守山泊まり」



妙蓮の蓮（蕾と枯れ花）

蕾の時期には2千枚前後の花弁、開花すると8千枚を超えることもある。20日間前後も咲き続けて、そのまま花弁を散らさずお辞儀をしたまま立って枯れる。又、種子を作ることが出来ないのでレンコンで次の代の新個体を作る。

東門院

最澄により開かれた比叡山を守る東門。ご本尊は十一面観音菩薩像。

町屋「うの家」

第75代内閣総理大臣宇野宗佑氏の生家。造り酒屋の趣を残してカフェに改修している。

所感：

- * 近江妙蓮という蓮をまったく知らなかった人も、名前は知っていたので一度見たいと思っていた人も、蓮のイメージが大きく違ったという声が聞かれました。
- * 資料館で説明を受けて、この不思議な蓮が、偶然と幸運と人々の復活を願う努力で600年以上守られてきたことに感動しました。
- * この珍しい突然変異の近江妙蓮も、まだ咲き残っている蕾が一斉に花開けば見応えがあるのだろう。
今回は背たけほどもある蓮葉の陰を覗き込みながら眺めただけなので、迫力には乏しかった。この池のこの土でなければ咲かない、つまり咲くことのできない妙蓮は稀なる花としての 妙なる味わいがいいのでしょう。一見の価値ありでした。
- * 酷暑続きの毎日で行程を「熱中症対策版」に変え、急きょ依頼した自治会館では気遣いを頂き、涼しく昼食をとることが出来ました。
- * 守山宿は趣のある街並みでしたが、冷たい飲み物を求めて建物の中に入ってしまった人も多く、水分と休憩を取って、全員無事に守山駅に到着しました。